

凡例	エリア名称
想定される導入施設	
○従来方式整備費	→ PFI方式整備費
●従来方式維持管理運営費	→ PFI方式維持管理運営費

高千穂鉄橋	
想定される導入施設 鉄橋トラス内部歩廊	
○整備費	●維持管理運営費
○ 1,186,862千円 → 1,068,176千円	● 1,091,200千円 → 982,080千円

県道7号エリア	
想定される導入施設 駐車場・休憩施設・トイレ等	
○整備費	●維持管理運営費
○ 1,708,717千円 → 1,537,847千円	● 11,546千円 → 10,391千円

天岩戸駅エリア	
想定される導入施設 収益施設・観光窓口・歩廊入口等	
○整備費	●維持管理運営費
○ 390,105千円 → 238,729千円	● 896,412千円 → 97,971千円

大平山トンネルエリア	
想定される導入施設 体験型アトラクション	
○整備費	●維持管理運営費
○ 174,848千円 → 0千円	● 126,280千円 → 0千円

大平エリア	
想定される導入施設 収益施設・歩廊入口 アスレチック施設	
○整備費	●維持管理運営費
○ 904,144千円 → 0千円	● 2,626,654千円 → 0千円

	従来方式	→	PFI方式
総事業費	9,969,158千円		5,443,392千円
※事業期間を36年として計算しています。(整備期間6年・維持管理運営期間30年)			
◎ 総事業費内訳	※各エリアの整備費・維持管理運営費については、右図の通りとなります。		
○整備費	4,364,676千円	→	2,844,752千円
●維持管理運営費	4,752,092千円	→	1,090,442千円
□起債元本・利息・PFI事業費等	852,390千円	→	1,508,198千円
収入見込額	10,058,176千円	→	5,617,719千円
※鉄橋や駐車場、収益施設等における収入及び補助金等の合計となります。			

◎需要目標数について

各エリアで想定している施設を整備した場合の、年間の需要目標数は以下の通りです。

物販や軽食を提供する収益施設	68,000人/年
高千穂鉄橋入場者数	108,000人/年
アスレチック施設等	32,000人/年
合計	208,000人/年

◎事業方式について

★従来方式とPFI方式とは？

- ・従来方式
町が建設から維持・管理・運営まで行う方式
- ・PFI方式
施設の建設・維持・管理・運営などを民間事業者の資金・経営能力及び技術的能力を活用して行う方法 PFI方式は、従来方式よりも**財政的な面**だけでなく、その時の**ニーズに合った整備や再投資、リスクの軽減**など、鉄道公園整備事業ではメリットの多い事業方法となります。

★PFI方式を活用した鉄道公園整備事業

鉄道公園の全エリアを対象としてPFI方式で実施できないか検討しています。鉄橋の改修や進入路、駐車場等の公共性の高い施設については、整備費や維持管理費において町の支出が伴いますが、収益施設やアスレチック施設、アトラクション施設については、民間事業者が整備から維持管理まで行い、町の負担がないように検討をしています。

鉄道公園整備事業につきましては、この基本計画の内容で事業を進めるものではなく、この計画を基に、さらに事業方法や財源等の検討を進めていきます。町の単独費である一般財源からの支出を減らす方法や事業に対するリスクが軽減されるように、また将来の負担になることがないように検討していきます。

高千穂鉄橋を鉄道遺産として残していくには、橋梁点検費や改修費など、多額な維持費が必要となります。維持していくことに費用をかけるのではなく、鉄橋を改修すると同時に周りに公園を整備することで観光地化し、「鉄道遺産」から「観光資源」への転換を図り、保存財源を捻出できないかと考えています。

また、観光地というだけではなく、町民にとっても魅力的な場所にすることが重要です。

周りの自然や景観を活かし、時代のニーズをとらえた整備をしていくことで、多くの人が集まる公園になるように検討していきます。

今月号では、事業費や需要目標数を公表します。

事業を進めていけば、多額の費用が必要となります。町の財政的な負担や、事業における様々なリスク軽減につながる方法も検討していきますので合わせて公表します。

先月号に引き続き、今月号では鉄道公園整備費等について公表します。